

オンライン開催 第162回老年学・老年医学公開講座

認知症医療の

現場は今

進化する診断、治療、共生



YouTube公開期間

令和4年

10月3日 11時30分から令和5年3月末まで

1 最先端の画像診断技術で見る認知症の脳内変化

東京都健康長寿医療センター研究所
神経画像研究チーム 研究部長

石井 賢二



2 進化する認知症診療

東京都健康長寿医療センター
脳神経内科 部長

岩田 淳



3 認知症とともに暮らせる社会をつくる

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長

栗田 主一



コーディネーター

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長

重本 和宏



視聴方法

以下のURLもしくはQRコードより
アクセスしてください。(視聴無料・申込不要)

<https://www.tmghig.jp/research/lecture/gerontology/>



主催



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

問い合わせ先 総務係 広報担当

03-3964-1141 (内線1239)

ホームページ <https://www.tmghig.jp>

認知症医療の現場は今

～進化する診断、治療、共生～

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
重本 和宏



超高齢社会を迎え、我が国の人口の25%以上を高齢者が占めるようになり、そのうちの600万人以上が認知症を患っていると予想されています。認知症の予備軍である軽度認知障害を有する高齢者も増えています。本人、家族そして社会の負担を軽くするためにはできるだけ早く発見して、有効な予防や治療をすることが必要です。また、高齢者の認知症の有無にかかわらず、すべての人が共生して質の高い生活を継続できる新しい社会づくりが必要です。そこで皆さんに、もの忘れが始まる前に脳内の変化がわかる最先端の画像診断技術、血液を使った認知症の新しい診断技術と薬剤による治療、そして認知症に対してフレンドリーな社会創造の取り組みについてご紹介します。

講演概要

1 最先端の画像診断技術で見る認知症の脳内変化

東京都健康長寿医療センター研究所
神経画像研究チーム 研究部長

石井 賢二



最先端の画像診断技術により、もの忘れが始まる10年以上も前から、脳の中では異常なタンパク質の蓄積が始まっていることが確認できるようになりました。認知症の根本治療や予防につながる診断技術についてお話しします。

2 進化する認知症診療

東京都健康長寿医療センター
脳神経内科 部長

岩田 淳



認知症の医療が大きく変わろうとしています。アルツハイマー病の根本にはたらきかける薬剤の登場、そして血液を使った診断と今までの考え方を根本から変えてしまう「進化」がそこまできています。

3 認知症とともに暮らせる社会をつくる

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長

栗田 圭一



認知症とともに暮らせる社会は、すべての人が、認知症の有無に関わらず、希望と尊厳をもって暮らせる社会を意味しています。世界に先駆けて超高齢社会に突入したわが国で、今、さまざまな取り組みがはじまっています。

視聴方法



以下のURLもしくはQRコードよりアクセスしてください。
(視聴無料・申込不要)

<https://www.tmghig.jp/research/lecture/gerontology/>



※場合により、動画公開期間を延長することがあります。

